

● ⑥7 小田川合流点付替え事業（真備緊急治水対策プロジェクト） ●

キーワード 関係機関が連携・協力した事業、生産性向上、地域と連携した河川管理、積極的な情報発信、緊急治水対策プロジェクトとかわまちづくり（防災拠点整備）の連携

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成30年7月豪雨で堤防決壊など未曾有の豪雨災害を受け、国・岡山県・倉敷市が連携し「真備緊急治水対策プロジェクト」を策定。本プロジェクトのハード対策として、小田川合流点付替え事業を実施し、令和6年3月に完成した。本プロジェクトの実施に当たっては、ハード対策だけでなく、地域連携型の要配慮者マイタイムラインの作成支援・普及などのソフト対策を国・県・市が連携し一体的に取り組んでいる点が評価された。

1. はじめに

平成30年7月豪雨により、高梁川水系の小田川及び小田川支川の計8ヶ所で堤防が決壊し、倉敷市真備町では、死者51名、浸水面積約1,200ha、浸水戸数約4,600棟という甚大な被害が発生した。

これを受けて、国・岡山県・倉敷市が連携して「真備緊急治水対策プロジェクト」を策定し、各主体がハード対策及びソフト対策に取り組み、令和6年3月に完成を迎えた。



完成式典（令和6年3月23日）

2. 事業の概要

本プロジェクトは、平成30年7月豪雨災害により明らかとなった様々な課題に対して、国・岡山県・倉敷市が「ハード対策」、「ソフト対策」についてそれぞれの具体的な行動計画を定めたものである。

ハード対策は、小田川合流点付け替えや小田川堤防強化等を実施した。BIM/CIMの活用に加え、大規模工事において、大型建設機械及びICT施工などの導入による生産性向上にも取り組んだ。

ソフト対策は、地元の方々と協働でマイ・タイムライン及び地域連携型要配慮者マイ・タイムラインを作成した。これを出前講座や劇団によるミニドラマDVDの配布などで普及させるとともに、SNS、地元のラジオやケーブルテレビを活用して情報発信を行った。

受賞機関 国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所

また、一部区間の河川敷では、マレットゴルフを楽しみながら、草の踏み倒しなどを地域の方々に行っていたことで、維持管理において地域との連携が図られた。

3. 事業の成果

ハード面では、高梁川からの背水の影響が減少したことにより、令和6年11月の台風21号の出水時には、小田川で約4.6mの水位低減効果（推定値）があったと考えられる。

ソフト面では、マイ・タイムラインの作成・普及を連携して行うことなどにより、地域住民の防災意識の向上が図られた。

また、まびふれあい公園（復興防災公園）は、平常時は防災教育や真備の魅力発信の場、災害時は防災拠点などとして活用でき、倉敷市真備町地区の復興、地域の活性化や防災意識醸成を目的に、令和3年3月に登録された「小田川かわまちづくり」の一環として、国が実施する小田川堤防強化と一体的に倉敷市により整備され、地域のにぎわいの創出に寄与している。



まびふれあい公園

4. おわりに

本プロジェクトは、予算の集中投資、生産性向上等の取組により、おおむね10年間で完成する予定としていたが、令和6年3月に前倒して完成することができた。この場をお借りし、関係者の皆さまに改めて感謝申し上げます。

今後も、本プロジェクトを通じて培われた地域の防災意識が更に高まり、地域活性化が進むことを期待している。